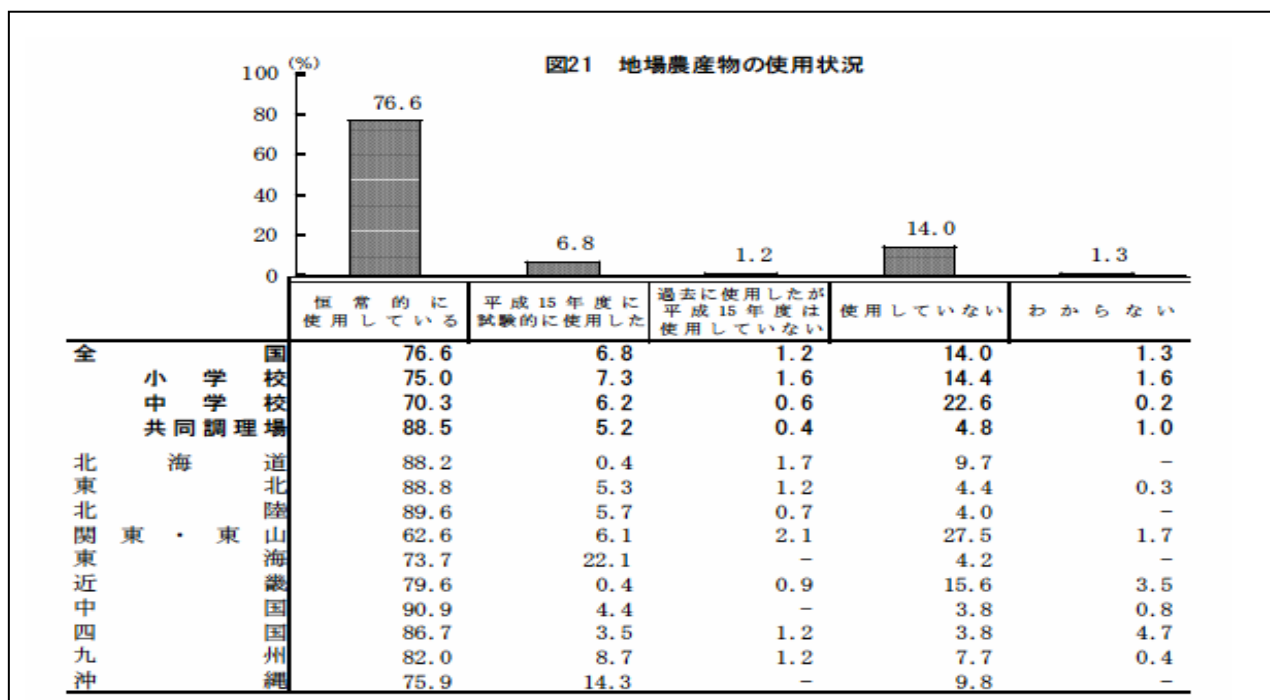


(3) 学校給食・地場農産物使用が拡大(地産地消実態調査)

農林水産省大臣官房統計部調査公表

平成16年度農産物地産地消等実態調査結果概要



この調査は、「地産地消」の取組の中で、学校給食での地場農産物取扱状況等を明らかにすることを目的に、公立小、中学校、公立共同調理場1,672(回答数1,636)を対象にとりまとめたもの。

(調査結果)

地場農産物の使用状況

コメント

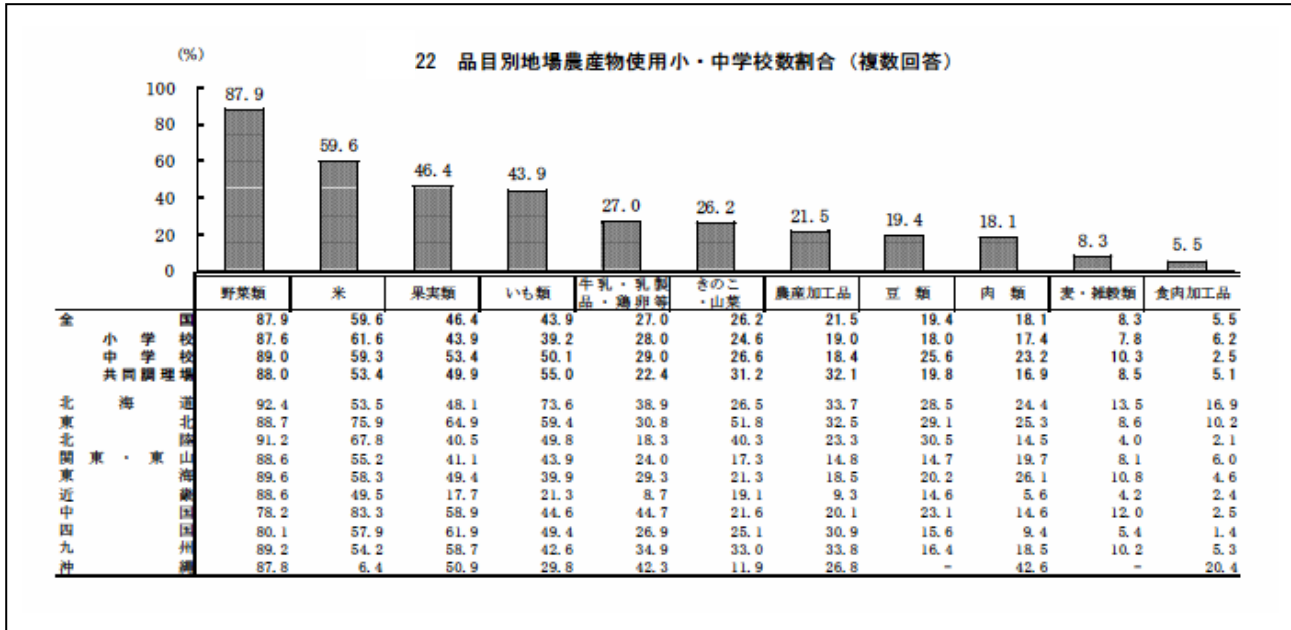
小・中学校の給食での地場農産物の使用状況は、「恒常的に使用している」が76.6%、「平成15年度に試験的に使用した」が6.8%で、全体の8割強が何らかの形で地場農産物を使用している。

一方、地場農産物を「使用していない」は14.0%であった。

また、農業地域別にみると、関東・東山、近畿では地場農産物を使用していない割合が比較的高くなっているが、他の地域では、約9割の小・中学校で地場農産物を使用している。

(なお、3年前と比較した地場農産物の取扱いは「増えた」が56.0%、「変わらない」が29.4%。また、3年後の取扱量増減意向は「増やしたい」が76.4%、現状維持が16.9%であった。)

使用した品目別地場農産物



コメント

地場農産物で使用した品目は、野菜類(87.9%)が最も多く、次いで米(59.6%)、果実類(46.4%)、いも類(43.9%)などであった。

農業地域別にみると、各地域とも野菜の割合が高くなっているが、他の品目では、米を使用した割合が東北、北陸、中国で高くなっており、果実類が東北、中国、四国、九州で、いも類が北海道でそれぞれ高くなっている。

地場農産物使用に当たっての課題

